



Bibilia

*先生方の著作物を読んだことがありますか?鑑賞したことがありますか?

図書館で新たに受け入れた先生方の著作物を紹介しています。

*心に残るすばらしい本を読んだことがありますか?

学生のみなさんと先生方に、「好きな本・作家」について語っていただきました。

★図書館では、クリスマス絵本のコーナーを設置しました。

杉浦館長の個人コレクションをもとに、クリスマス絵本のコーナーを設置しました。

巻頭言

「なぜ？」に答える

もくじ

東京純心女子大学 学長 : 田崎 清忠

クリスマス特集

- クリスマス絵本のコーナーを
設置しました 2
- サンタクロースが生まれた時 3

教職員の著作物紹介

- 今年度図書館で受け入れた著
作物一覧表 4
- 私の作品・著作物紹介 5
- 先生方に自らの作品・著作物の
紹介をお願いしました

私の好きな本・作家!

- 学生の皆さんが好きな本・作家 6
- 先生方が好きな本・作家 7

図書館から

- しーず・図書館司書からの
メッセージ③ 8
- 新着図書案内・お知らせ 8



「佐藤くんが脚を折ったんだってさ。どうしてなんだろうね」と誰かが言います。すると同僚が返事します。「あいつは不注意だからだよ。いつも折るんだよ、あっちこっち」。佐藤さんが通っている外科医は説明します。「歩道の段差で足が引っかけたんですな。年齢も関係あります。頭脳と足先のコーディネーションがうまく働かなくなるのです」。上司の自称精神分析家のコメントは違います。「心のどこかに、仕事を回避しようという意識が働いたという解釈がもっとも妥当だよ」。でも佐藤さんの奥さんは言います。「どうせろくでもないこと考えていたのよ。そういう人なのよ、うちの主人は」。

何かが起きたとき、それがなぜ起きたのかを説明する答え方は人さまざまです。この違いは、その人が立っている基盤の違いから来ます。考えてみると、私たちは日常的にこのような行為と思考の連鎖を経験しています。「うさぎの目はなぜ赤いの」という子供の質問にDNAや色素の話を持ち出しても、子供は理解しないでしょう。知っていることと、それを相手によく

分かるように説明することとは別問題です。しかしいずれにしても、人間関係におけるコミュニケーションのプロセスの中においては、まず「なぜ?」の内容についてのさまざまな角度からのより正確な理解を持っていることが大切です。

中学生のとき、ある日突然「僕はなぜ生きているんだろう」という疑問に取り付かれたことがあります。悶々としている私に「西田幾太郎の本を読め」とアドバイスしてくれた先輩がいました。列車通学をしていた私は、学校の帰り車中で読み始め、駅を降りたころにはメチャメチャになっていました。駅前の敷石に座り込み、人前もかまわずオイオイ泣きました。今思えば、この本は難しい哲学書で、中学生の私に分かるはずもなかったのですが、なぜか私は魂を揺り動かされるような感動を味わっていたのです。これが私の長い「本との付き合い」の始まりでした。

「なぜ?」に答えられるような本に出会った人はとても幸せです。



クリスマス絵本のコーナーを設置しました

クリスマス絵本のカ

図書館長：杉浦 太一



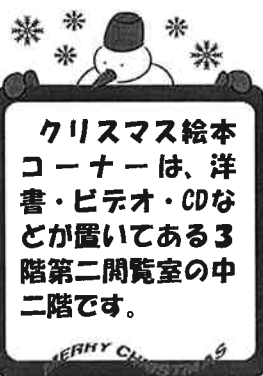
クリスマス絵本にことさら強い関心をもって集めたのでもないが、昨年从今年にかけて50冊が150冊に増えた。

昨年の夏、学生に向けて授業以外に自分の出来る、自分らしいサービスがあるのではと絵本文庫の開設を思い立った。そのオープニングのアトラクションとして図書館にもちかけたのが手持ちの「クリスマス絵本の展示会」であった。

幼児教育を長年研究テーマとしてきたこともあって絵本に関心をもちはじめ一時は数千冊を集め、本格的な研究もおこなったりしたが、東京純心に移ってからは数十冊を残し、あとは施設や研究機関にあげてしまっていた。それでもやはり

気に入ったのは手元におきたくて、一冊また一冊と増えていき、いつのまにか一つの本棚を占領するようになっていた。

この学生には絵本など無縁だと思っていたが、研究室を訪れてくれる学生は時になつかしがり、時に大発見したかのようなリアクションで絵本の本棚を見に来てくれるようになり、これならという感じであった。「クリスマス絵本がこんなにまとまってあるなんて!! スゴイ!!」展示を見に来てくれた学生数人のリアクションであった。この「スゴイ!!」というリアクションの重要性に今さら気づき、出来る限り多くクリスマス絵本をとりあえず集めていこうと思っている。



クリスマス絵本コレクション

杉浦先生のコレクションを基に、現在200冊ほどの絵本が集まっています。内容は様々で、古典的な名作に限らずアンパンマンやコボちゃんを主人公にした絵本もあります。キリストの誕生、サンタクロース、プレゼント、お料理などなど、話題に事欠かないクリスマスとはいえ、これほど多くの物語を生み出すクリスマスの魅力に今さらながら驚きを感じます。

絵本の形も様々、サンタクロースの形のもの、絵が飛び出すもの、仕掛けがあるものなど、読んでさわって楽しんでください。色使いもクリスマスならではの華やかなものもあり、落ち着いたものもあり、表紙を見ているだけでもワクワクしてしまいます。また、同じお話を題材にした、様々な翻訳や画家による作品を

見比べてみるのも良いでしょう。

少しずつですが、これからもこのコレクションを増やしていきます。日本のものに限らず海外の絵本も集めますので楽しみにしててください。

そして、このコーナーはクリスマスの時期だけの展示でなく、常設のコーナーです。真夏でもクリスマス気分を味わうことができます。「季節はずれ」と感じることもあるかもしれませんが、しかし、どの絵本も、心温まるものばかりです。私たちの疲れた心を癒してくれるのではないのでしょうか。サンタクロースの存在を信じていた幼い頃を思い出して、静かなときをすごしてはいかがでしょうか。

ソファに座ってゆったりとお楽しみください。



サンタクロースが生まれた詩



VISIT FROM SANTA CLAUS

by Clement C. Moor

'Twas the night before Christmas, when all through
the house

Not a creature was stirring, not even a mouse;

The stockings were hung by the chimney with care,
In hopes that St. Nicholas soon would be there;

The children were nestled all snug in their beds,
While visions of sugar-plums danced in their heads;

And mamma in her 'kerchief, and I in my cap,
Had just settled down for a long winter's nap,

When out on the lawn there arose such a clatter,
I sprang from the bed to see what was the matter.

.....



VISIT FROM SANTA CLAUS (THE NIGHT BEFORE CHRISTMAS)

《クリスマスイヴのこと》
アニタ・ローベル絵
松井るり子訳
セーラー出版・1993年

《クリスマスのまえのばん》
ターシャ・テューダー絵
中村妙子訳
偕成社・2000年改訂新版

《クリスマスのまえのばん》
トム・パトリック絵
上野和子訳
大日本絵画・1997年

《サンタ・クロースがとんできた》
ペニー・アイプス絵
きたむらたろう訳
パルコ出版・1989年

《サンタがイブにやってきた》
マイケル・フォアマン絵
きたむらまさお訳
大日本絵画・1990年

訳・絵それぞれで
すが、皆さんはど
れが好きですか？

《サンタクロースがやってきた》
グランマ・モーゼス絵
倉橋由美子訳
JICC出版局・1992年



この詩はニューヨークに住む神学者クレメント・ムーア(1779-1863)が1822年に自分の娘のために作ったものです。ここで紹介したのはその冒頭部分です。(題名は「The night before Christmas」となっている場合もあります。)この詩は1823年12月23日にニューヨークの新聞「The Sentinel」に掲載され一躍有名になり、様々な国の言葉に訳され世界中に広まっていきました。

この詩のサンタクロースは、現在皆さんにおなじみの姿で登場し、そしてそのイメージが広く定着したのはこの詩によるものだとも言われています。

絵画、音楽、映像などこの詩に影響を受けたものは数え切れないほどあるようです。パロディもたくさん作られていて、インターネットで検索するとたくさん出てきます。皆さんも、探してみてください。



教職員の著作物紹介

今年度図書館で受け入れた教職員の著作物を紹介します。

「教職員の著作物コーナー」を設けていますので、ぜひ手にとってください。(氏名の五十音順)

飯田雅章執筆	『かたちとイメージの記号論』	東海大学出版会 1991
井出洋一郎監修	『ブルックリン美術館所蔵バルビゾン派の画家たち展』	毎日新聞社 1998
A.Wainwright監修	『親子ではじめる英会話絵じてん』	三省堂 2001
上原文丸[出展]	『一水会展 第62回』	一水会 2000
浦田カズ代[出展]	『新しい年、新しい生、大嬉美術展図録』	韓国カトリック美術家協会 2001
岡部昌幸監修	『21の日本の名画を愉しむ』	青春出版社 1999
岡部昌幸監修	『ピカソの「正しい」鑑賞法』	青春出版社 2000
岡部昌幸[執筆]	『ジャポニスム入門』	思文閣出版 2000
尾山真弓訳	『メンデルスゾーン』	音楽之友社 1999
甲斐義幸著	『科学文化論』	朝倉書店 1998
柿崎孝夫執筆	『文化政策入門』	丸善 2001
柿崎孝夫著	『甦れ、美意識。』	資生堂企業文化部 1995
君島昌之執筆	『高等学校用デザイン史』	実教出版 1996
小林能成[ほか]著	『心理学への招待』 改訂版	学術図書出版 1996
酒井多賀志演奏	『酒井多賀志オルガンリサイタル 第1集』 (CD)	Studio Lyric 2000
酒井多賀志演奏	『酒井多賀志オルガンリサイタル 第2集』 (CD)	Studio Lyric 2001
酒井多賀志作曲	『イントロダクションとフーガ 二長調 Op.50』 (楽譜)	岡野オルガン工房楽譜出版 1999
澤田昭夫著	『見えないものを大切に』	聖母の騎士社 2001
妙摩光代執筆・編集	『春よとこしなえに』	明石田鶴子 1980
田崎清忠監修	『高円宮杯全日本中学校英語弁論大会 第52回』	日本学生協会基金 2001
田尻真理子[執筆]	『芸術理論の現在』	東信堂 1999
長嶋秀世[ほか]編著	『初級シスアドコンパクト用語辞典 2000/2001年度』	ピアソン・エデュケーション 2000
馬越恵美子執筆	『通訳の仕事』	アルク 1995
松平頼暁訳	『ベリオー現代音楽の航海者』	青土社 1998
Peter Milward執筆	『ピーター・ミルワードの世界』	沖積舎 1995
Peter Milward訳	『森の絵本 対訳版』	講談社 2001
保多由子歌	『見えないこども』 (CD)	ビクターエンタテインメント 2001
米田綾子著	『岩永マキ (シリーズ・福祉に生きる14)』	大空社 1998
米田綾子[ほか]著	『この子らと生きて —近藤益雄とちえおくれの子の生活教育』	大月書店 1986